

# ふれあい



発行所：鳥取県人権教育推進協議会

〒680-0846 鳥取市扇町21 県立人権ひろば21ふらっと内

電話：0857(22)0578 FAX：0857(22)0593

発行者 松井 満洲男

## 「第7回中国ブロック人権・同和教育研究大会」を終えて

10月25日(土)は穏やかな小春日和でした。そのような中で「第7回中国ブロック人権・同和教育研究大会鳥取大会」を無事に終わることが出来ました。司会を務めていただいた役員及び県外の報告者の皆様、参加いただいた方々に改めて心より感謝申し上げます。参加者数は、大会名に比べて期待するほど多くはありませんでしたが、2つの分科会で実践報告と熱心な討議が行われ、充実した大会になったと思います。本研究大会を振り返り、簡単に報告をいたします。

- |   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | 日 時  | 2014年10月25日(土) 13:30~16:00   |
| 2 | 会 場  | 鳥取市人権交流プラザ 研修室、教養室   |
| 3 | 参加人数 | 50名  |
| 4 | 分科会  | <p>第1分科会 ①報告者 原 平 (島根県益田市立益田小学校)<br/>報告題「少しずつ少しずつ、何度も何度も」<br/>司会者 谷口三千代 (八頭町立八東小学校)</p> <p>②報告者 川口 泰司 (山口県人権啓発センター)<br/>報告題「Y住宅販売会社土地差別事件が問うもの」<br/>司会者 佐藤 淳子 (とっとり震災支援連絡協議会)</p> <p>第2分科会 ①報告者 高橋 望 (広島県立西条特別支援学校)<br/>報告題「A君との関わりを通して」<br/>司会者 武林 淳 (鳥取県立白兔養護学校)</p> <p>②報告者 楢本 昌司 (岡山県津山市立津山南小学校)<br/>報告題「みんなが楽しいクラス」になるために<br/>～小学校3年生のなかまづくり～<br/>司会者 福原 潤一 (南部町立会見小学校)</p> |

討議記録等は特にありませんので、運営にあたった事務局からの感想を簡単に述べさせていただきます。

### —第1分科会—

小学校での実践事例と、住宅販売で全国展開する会社の土地差別問題を取り上げた報告の2本をもとに研究討議を行った。両報告とも、たくさんの質問や意見・感想が出た。問題点を深めるまでにはいたらなかったが、課題を共有することはでき、充実した研究討議の時間がもてた。2時間の分科会討議の時間配分が短すぎると感じた。3分の2以上の人が第1分科会に参加し、第2分科会とかなり差が出てしまった。

—第2分科会—

実践報告は2報告とも特別に支援を要する子どもへの教育支援の在り方や、将来に向けた進路保障という課題が中心の内容であった。報告・討議を進める中で、子ども本人だけの課題としてとらえず、子どもを支える周り（家庭や学級）の関わりや構築や教育環境を充実することが大切であることを確認し合った。

---

---

## お知らせ

---

---

### 「第66回全国人権・同和教育研究大会香川大会」開催迫る!

#### 鳥取県からの報告は「倉吉市小鴨地区同和教育研究会」

あと一週間ばかりで、第66回全国人権・同和教育研究大会香川大会が開かれます。本県からは、倉吉市小鴨地区同和教育研究会が報告されます。

期 日 2014年12月6日(土)・7日(日)  
分科会場 社会教育部会(第5分科会第3分散会「人権確立をめざすまちづくり」)  
香川県小豆郡小豆島町西村甲1941-1  
サン・オリーブ 多目的ホール  
報 告 者 鳥取県人教・倉吉市小鴨地区同和教育研究会  
森 康 雄(もり やすお)  
伊 藤 教(いとう きょう)  
報 告 題 「地区内に発生した差別落書き事象とその後の取り組みについて」

なお、本県から選出された実践報告協力者(司会者)3人の方の担当分科会分散会もお知らせします。

第1分科会第3分散会「人権確立をめざす教育の創造」 会場:高松テルサ ホール  
福原 潤一(南部町立会見小学校)

第3分科会第3分散会「進路・学力保障」 会場:香川県立高松工芸高等学校 体育館  
尾坂 紀生(鳥取県立倉吉総合産業高等学校)

第5分科会第1分散会「人権確立をめざすまちづくり」  
会場:イマージュセンター(小豆島町農村環境改善センター)2階  
多目的ホール  
佐藤 淳子(とっとり震災支援連絡協議会)

~~~~~

## 研究会予定

~~~~~

◎「第29回人権啓発研究集会」(全人教後援)

2015年1月22日(木)~23日(金) 山口市

◎「第67回全国人権・同和教育研究大会長野大会」(全人教主催)

期 日 2015(平成27)年11月21日(土)・22日(日)

会 場 全体会場 長野市ホワイトリング



## 鳥取県人権教育副読本「はばたき」の紹介

<サンプル資料>

◇ 小学校低学年 『せんせい あのね』

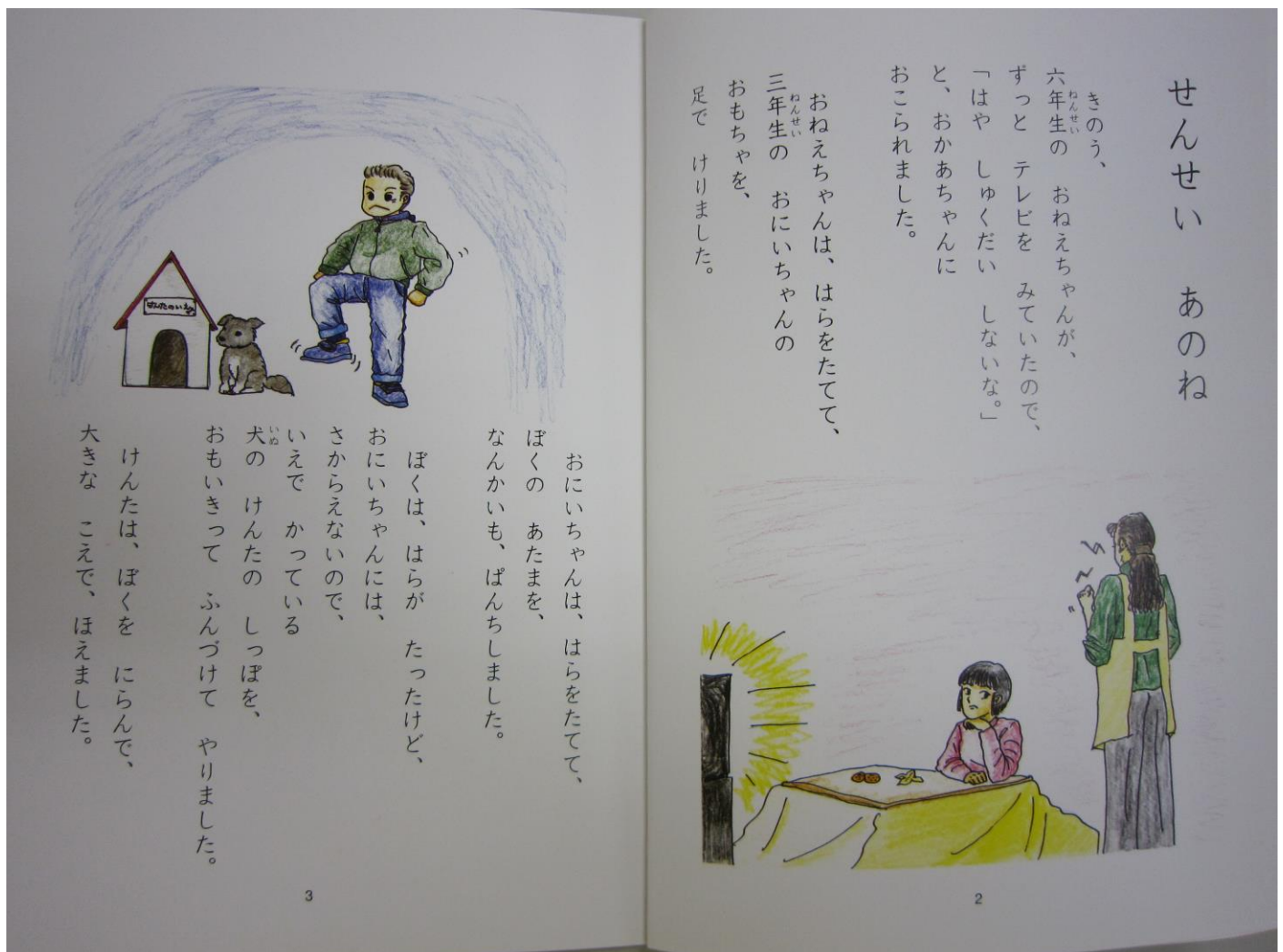
◇ 中学校 『私は、私の可能性に挑戦したい』

1999年と2000年3月に鳥取県同和教育推進協議会（現在は改名して鳥取県人権教育推進協議会）が編集・発行した副読本「はばたき」を改めて紹介します。

県内の多くの学校で、また多くの先生方が学校における人権教育の実践に活用されてきたことと思います。現在も必要に応じて有効活用されているとは思いますが、発行当初に比べるとやや低調になっているようにも感じられます。しかしながら、当時の現場の先生方が、子どもたちにとって身近な学習材を精魂込めて教材化した貴重な学習資料であり、人権学習をより充実できるものと考えます。

人権教育の学習方法等が変わっても、人権尊重の考え方の本質をはずさないで子どもたちの心に深く迫り、心情を高め、思考をうながす効果的な資料がたくさん載せられています。現在、小学校低学年用・中学年用・高学年用、中学校用、研究編の1セット500円で販売しております。是非ご購入いただきたいと思います。

なお、ご活用の際は、付録の「研究編」を十分参考にさせていただきたいと思います。



## 私は、私の可能性に挑戦したい

私は、幼い頃から耳が聞こえません。一才の時、重い病気がかかり、その後遺症で耳が聞こえなくなりました。三才になり、近くの保育園に通い始めました。学習発表会や運動会など、楽しいこともたくさんありましたが、友達と話ができなかったことがとてもくやしき悲しいことでした。

五才になり、S園に入園し、聾学校の幼稚部に通学することになりました。母は、幼い私が自分の家から離れることについて、大変悩んだようでした。しかし、耳の聞こえない私に、何とか話ができる力をつけさせたいという願いから、学園に入ることを決意したそうです。母と一緒に鳥取まで汽車に乗って行き、学園についてからいよいよ母と別れる時、母が両手で顔をおおって涙をこぼしたことを今でもよく思い出します。

私はこれまで、耳が聞こえないために、くやしき悲しい思いをしたことがいくつもありました。四年生の時、ある小学校との交流会で一緒にじゃがいも掘りをしました。その時、そばにいた女の子が、「おいしいね。」と言ったので、私も「おいしいね。」と言いました。女の子がニコッと笑ったので、自分の言葉が通じたことが分かり、とてもうれしかった。

す。しかし、男の子たちと話したときはとても早口だったので、全然分かりませんでした。何と言っているのか聞き返すことができませんでした。なぜなら、聞き返すことが恥しかったこと、時間をかけて聞くと嫌われるのではないかと思っただけからです。耳が聞こえないことは悲しいことだと思いました。

また、六年生の交流会の時は、一緒にプールに入って遊びました。しばらくして先生が「集合。」と言われたのですが、私には全然聞こえませんでした。近くにいた男の子が、「おい、先生が呼んでいるよ。」と教えてくれて、初めて分かりました。この時も他の人は、耳もよく聞こえるし、話もできるしうらやましいなあと思いました。

夏休みなどには、実家に帰ることがあります。自分の家だといつても、家族との話は簡単にはできません。母と姉はキニードサインを使ってくれるのでよく分かりますが、父や兄はキニードサインが使えないので、ゆっくり話してもらったり紙に書いていたりします。ある時、兄と話していて、なかなか通じないことがありました。その時、兄は、「障がい者だから仕方ないよ。」

と言いました。私は、くやしき涙が止まりませんでした。また、中学一年生の時、親戚のおばさんが来たときに、

「聞こえますか。」  
と言われたことがありました。私は何か言おうと思ったのですが、何も言うことができずして泣きました。その時、母がいつものように、キニードサインで教えてくれました。悲しいけれど、私は悲しくなると、

「いらん。自分の力では無理。」  
と大声を出し、二階に上がってしまいました。このように、多くの人と触れ合うたびに悲しきくやしきを感じ、自分に自信が持てませんでした。

しかし、中学三年生になって少しずつ考えが変わってきました。自分にはないものをくやんで生きるのではなく、自分にできることを一生懸命しようと思えるようになりました。人間は、それぞれ無限の可能性をもってこの世に生まれてきています。きつと全ただけの人が、一生のうちにその素質や能力を発揮することができるとは限りません。きつと全ただけで、それが自分の力だと思っているのではないかと思うのです。そう考えれば、今まで自分の弱い部分だけを見て、自分に対して劣等感をもっていた私の生き方は、間違っていたと思いはじめようになったのです。

そこで、私は自分にできることは何でも、とにかく一生懸命頑張るのだと決意しました。

まず、クラブ活動で行っている卓球を頑張ろうと思いました。練習前の走りこみ、柔軟体操、筋力トレーニング、素振りなど私はとにかく頑張りました。また、試合でも一球一球を大切に最後まであきらめず、ねばるようにしました。その結果だと思えますが、これまで、全然勝てない先輩にも、時々勝つことができるようになったのです。「よし、行けるぞ。」と思つて、私はますます努力をしました。その結果、今年の県内の施設の園生が集う卓球大会では、一回戦で昨年のチャンピオンを倒し、優勝することができました。何とも言えないうれしさが込み上がりました。「やればできるものだ。」と思えました。また、今年にはマラソンにも挑戦しました。八百人近い人が走ったのですが、私は三キロメートルの部の部で六十七位でした。成績はあまり良いとは言えませんが、自分ではよく頑張ったと思っています。

私の将来の夢は、自動車工場でみんなと一緒に働くことです。そして、何ごとにも初めからあきらめるのではなく、自分の夢に向かってチャレンジしたいと思えます。私が自分の人生に納得するためにも、また、先輩たちがつと夢をもつことができるようになるために。

①キニードサイン：会話をするとき、話の不足を補うために用いられている手や指で表わす記号。